

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所のホーム理念がある。サービス支援の基本的考え方と周知している。1人ひとりに合わせた地域社会の中での暮らしの継続を大切にしている。		大ホールに掲げ利用者と職員も共有して、理念に基づいた取り組みをしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日2回申し送り時にホーム理念、接遇心得を唱和し全職員が意識づけをして日常的に取り組んでいる。特に言葉かけ、態度に及んでは徹底を図っている。		全職員が理念と接遇心得を共有して毎日実践している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業者がどのような思いで利用者の生活を支えているかを、理解していただけるように、生活の実際を見て頂き分かりやすく伝えている。		身近なところからグループホームが果たす役割を、理解していただくように理念を通して伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いは多くはないが、法人内で出会う方や隣近所の方への挨拶は気軽にしている。		関心を持って頂くような関係作りを工夫していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会には加入していないが、運動会や慰問は参加し交流している。敬老の日の記念品は住所地から届く人もおられ喜ばれる。市政だよりも目を通されている。		地域の一員として利用者と共に地域活動に参加して実感していきたい。

福岡県 グループホーム 春

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の力は家族や運営推進メンバーを通して情報発信しているが、実際の活動はない。		3年目を迎えて、培ってきた専門的な多くの事を地域に活かす方法を職員間で取り組みたい
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価する事で介護の実際が明確になり、見直し改善し利用者のサービス向上に活用できる。反省することが多い		管理者職員は評価を活かして利用者のより良い暮らしにつなげていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、ホームの現状報告、積極的な取り組み状況を報告している。メンバーの意見は毎回新鮮に感じ前向きに検討してサービス向上に活かしている。		メンバーは年に1回家族会にも参加され、次第にグループホームを理解して頂いている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの実情を報告して意見やアドバイスをして頂いている。利用者へのサービスが低下しないように協働している。		サービス提供の相談事は、随時市町村と連携をして解決を図っている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について理解が乏しいので、必要時の支援について不安があるが関係機関と相談していきたい。現在該当する事例はないが、その時に備え、専門的な学習を増やしたい。		職員間で学習の機会を持ち、周知していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会を反映して学習の機会も多く研鑽をつんでいる。全職員は周知徹底して虐待防止に取り組んでいる。		相応する行為は早期発見して速やかに対処していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時は十分な説明をしている。事業所の体制を明確にする、出来ないことははっきり伝える。本人家族が安心して利用できるように説明して、納得いただいている。</p>		<p>家族や利用者から不安や疑問点を引き出すように対応して、利用時の納得を図っている</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と常時対話を図り表出される訴えに傾聴して、速やかに対応してサービス支援に反映している。</p>		<p>本人の意見や思いが述べやすい環境に配慮している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個別の状況に合わせた報告は積極的に行っている。特に病状報告については細かく連絡をとり、家族の意見を聞きながら医療と連携を図っているので安心される。</p>		<p>事業所と家族は双方向的に情報交換を行っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は設置しているがご利用は少ない。家族との対話や電話連絡は日頃からかかさずに行い、気軽に意見を言って頂くように関係作りに努めている</p>		<p>不満や苦情は原因把握を行い速やかな改善に努めていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例会を行い、率直な意見や提案を職員間で検討している。管理者は大事な決定は職員に報告している。</p>		<p>職員が仕事への意欲向上に繋がるように、職員間で検討して反映している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な勤務体制、応援体制に努め、勤務シフト上も無理のない勤務を確保し調整等も行っている。</p>		<p>勤務体制は柔軟に対応して利用者のサービス低下を招かないように取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職場環境を整え利用者へ長期的に支援していけるように、又職員の離職を最小限に抑えるように配慮している。</p>		<p>長期的に仕事ができるように、職場環境を整えている。自身の健康管理をすることや心配事は相談するように日頃から職員に話している。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>公正な判断の基に採用された職員は、持っている能力を發揮して、仕事ができるようにサポートしている。1人ひとりの能力を見極め人材育成に努めている。</p>		<p>公正な人事採用を行い、福祉の現場で遣り甲斐をもって働いていけるように、職員のサポートをしている。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>高齢者の人権確保と虐待防止に努めている。意外と見過ごすのが言葉の暴力である。職員への徹底を図っている。</p>		<p>人権教育や啓発活動は継続して取り組んでいく。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>正職、パートも平等に学ぶ機会があり、働きながらトレーニングしていく事を進めている。個々の努力は評価し段階的に育成する取り組みをしている。</p>		<p>法人内外の研修の機会を利用して人材教育を行い、職員の質の向上を図っている。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互の訪問活動に至っていないが、同業者ネットワークに参加して学習の機会あり、情報交換が出来る。</p>		<p>ネットワークの勉強会に参加して職員間で周知し現場に活かしている。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>喫煙、休息の環境確保に配慮している。昼食時間やお茶の時間は利用者と一緒にゆっくり寛いで楽しい。</p>		<p>自己管理をしていくことは日頃から伝えている。ストレスや職場のトラブルは早めに対応して改善していく</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績は日頃から評価している。労働条件、職場環境改善、本人希望の勤務調整、定期的健康診断、就業規則等必要な支援をしている。		長期的に生き生きと働き、利用者の支援が出来るように必要な支援をしている
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が入居されることに納得されているか、不安なことはないか本人自身からよく聞いて受け止めている。		必ず本人に会って思いを受け止め、初期の信頼関係を築いている。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、家族の思いや意向を理解していくが、事業所が出来ることと、出来ないことを明確に伝えている。		相互に相手を理解するように努め、利用者と一緒に支えていく良好な関係として確認している。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に適切なサービスを提供する為に他機関との連携とサービス活用を視野に入れて初期対応をしている。		一番必要なサービス利用に対応する為に、サービス事業者と連携している
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には施設見学を勧め、ホームの雰囲気に触れてもらい納得されるまでゆっくり勧めている。		本人の気持ちを大切にサービス利用を開始している。
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お茶飲んだり、食事をしたりして同じ家で過ごしていると、実際利用者の言動に学ぶことも多く、介護される一方的な立場ではなく、職員と対等であることを実感している。		理念に添って相互に支え合う関係として安心して生活を送って頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を理解して双方向的に情報交換を行い協力して支援している。		本人を継続的に支えていく対等な関係を築いている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族には様々な形があるので、それぞれの立場を理解して本人、家族のより良い関係が継続していけるように支援している。		本人と家族がより良い関係が維持できるように、それぞれの思いを受け止めて支援している。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの地域生活の暮らしを利用者が忘れないように、家族関係者は外出外泊したり場面作りに努力されている。事業者としても協力を惜みず支援していく。		利用者が大切にしてくられた関係継続は、家族と協力して支援している。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が共に暮らしを楽しんでいるか、他者とうまく付き合えているかそれとなく見守りして配慮している。		ホーム理念に添って支援している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等での契約終了後は、居室の確保、退所先への経過フォロー、家族の相談にのる、今まで通り関係の継続を図り安心して頂いている。		利用者や家族の意向を大切にして、必要とされる時は継続的な取り組みをしている。
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実際には本人の思いや意向は、日頃の行動や表情から汲み取り把握することが多いので、毎日の対応を大切にしている。		職員の思い込みで対応する事がない様に、毎日利用者に寄り添って支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方はサービス利用後も情報収集に努め、サービス向上に役立っている。		これまでの暮らしを、これからのその人らしい暮らし方に取り入れている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの把握は日常的に行い、出来ないことより出来る力、分かる力を発見して暮らし方に生かしている。		きめの細かい現状把握を継続して行い、暮らしに生かしている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の課題とケアについては、関係者との意見を反映し、具体的な分かりやすい介護計画を作成し、自立した生活を支援している。		家族を含め必要な関係者の意見を反映した、介護計画を作成している。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行い、本人の現状に即した介護計画を作成しているが、状態は変化するので関係者と随時検討しながら、新たな介護計画を作成している。		現状に即した本人本位の具体的で、分かり易い介護計画を作成している。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録、フローシートの個別記録は職員間で情報を共有して、現場の実践に活かしている。		個別記録や経過支援は、介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能の支援はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多様な機関との協働は、利用者の必要に応じておこなっている。		地域資源の情報収集に努め、安心安全な暮らしを支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービス、オムツ給付、訪問歯科を利用されているが、利用者の満足感どうか、不足はないか、他に要望はないか随時声かけしている。		利用者の暮らしを豊にする為に、必要時は多様なサービスを利用している
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	直面する困難事例はないので協働の実際はない		必要な場合は地域包括支援センターとの連携を図り利用者のより良い暮らしのマネジメントに努めていく。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に、かかりつけ医について説明している。本人、家族の意向でかかり医が決まったら連携を図って支援している。		適切な受診支援を継続して行い、利用者の健康維持を図っている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的にスケール診断し経過を見ている。必要時は医師に相談して診断や治療を仰ぎ、家族に経過をきちんと伝えている。		ホームで出来る学習療法を取り入れ継続して行っている。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員は毎日健康チェックを行い、病状変化に対応している。介護職員は看護職員の指導を受け、対応時の判断の力となっている。		看介護は日頃から協働して、早期発見早期治療を目標にして取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時の説明とその後のフォローは随時行い、病院側や家族と情報共有して連携を図っている。入院先には家族から経過を聞き、なるべく早い時期に訪問して安心して頂いている。</p>		<p>本人家族が安心して入院できるように、必要な支援を行っている。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>状態悪化が予測される場合は、かかりつけ医から本人家族へ十分に説明がある。家族の意向を尊重して、決定された方針は全員で共有している。</p>		<p>終末期に向けた方針の体制作りは、将来的に取り組んでいきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化される前に、かかりつけ医や家族と段階的に相談して、方針を共有しチーム支援している。</p>		<p>方針は共有しチーム支援による悪化予防に努めている。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移行先でも適切なケアの継続を図る為に、家族やケアに関わる関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。</p>		<p>移行後も本人が望む暮らしの継続や、ケアの継続が出来るように他機関との連携や協力を図っている。</p>
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保は職員全員が周知している。特に入浴排泄はもとより、人前での言葉かけや対応、記録についても、慎重な取り扱いをしている。</p>		<p>全職員が個人情報保護法の理解に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常的に利用者の行動や表情、ケアへの反応を見守り、接していると決定や納得の瞬間が見える。</p>		<p>自己決定する力は一人ひとりの力に合わせて工夫し働きかけている。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>体操やレクは声掛けしているが、負担にならないようにしている。本人のその日のペースを大切に支援している。</p>		<p>本人にとってその日の気分があり柔軟に対応している。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容サービスは定期的に利用されいつも小綺麗にされている。服を選んだり他者の服にも関心を示され、会話が増えている。</p>		<p>表現されているおしゃれ心を大切にしている。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>台所へ立たれることはない。簡単な手伝いは進んでされるので見守りしている。毎回職員も一緒に食事をして、完食できるように声かけ見守りしている。食事の時間が一番の楽しみのおよである。</p>		<p>毎回一緒に食事をする事で、利用者のそれぞれの好みや満足感が伝わり、改善等に役立っている。側で見守りして誤嚥予防をしている。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>酒、たばこの嗜好は自由。現在支援者はいない。家族が望む場合飲み物やおやつ等預り渡している。利用者も職員も一緒に頂くお茶の時間は楽しい。</p>		<p>嗜好品については入居時説明を行い、希望の確認を行っている。</p>
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を活かしている。昼間はトイレで排泄するを基本にしている。利用者に合わせて介助量を見極めている。</p>		<p>食事や睡眠と同じく快適な一日を過ごす為の、大切な健康管理であるので、毎日排泄の有無を確認している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家で入浴するように、ゆっくり楽しんで頂いている。バイタルは実施、入浴不可の人は清拭更衣を実施し清潔保持している。全身の皮膚観察や月1回の体重測定も入浴時に行っている。		入浴に関する要望はいつも伺っている、入浴時に出来る取り組みを継続している。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は短い休息を入れている。日課は一人ひとりにあわせて行い生活リズムを整え、夜間の安眠につなげている。不眠の訴えが多い人は医師に相談している。		日中の離床を促して昼夜のメリハリをつけ安眠して頂くように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自ら進んでお手伝いされる場合もあるが、本人の負担ならぬように見守りしている。職員は毎回丁寧にお礼を述べ達成感や満足感を味わって頂いている。		小さな事でも本人の自身に繋がる支援に努めている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お地藏さんのお賽銭くらいのお金を所持されている方もいる。お金に関しては被害妄想が大きく、困難な面がある		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はよく好まれる。近郊へのドライブは馴染みの場所へ利用者全員を対象に外出している。		戸外では季節を感じたりできる馴染みの場所を検討して外出している。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望は家族に連絡して協力して頂いている。観光地や温泉に外泊され笑顔で帰設される。		本人が希望する外出や外泊は家族と相談して実現していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人に電話したり手紙を受け取ったり、自然にされているので見守りしている。		プライバシーに配慮している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族をはじめ馴染みの人は気軽に訪問されている。ゆっくり過ごすスペースや湯茶を提供して満足されている。		訪問時は利用者の情報提供を行いなじみの関係作りに努めている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に拘束のないケアを実践している。言葉の暴力や拘束は職員本人が気づかずにいる場合があるので、その場ですぐに職員同士注意しあうこと等を指導している。		ケアの大変な方も人権保護の観点から身体拘束はあってはならないので職員一丸となる。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内で見守りの連携を図り日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。法人内で連携して徘徊予防に努めている。		鍵をかけない利用者の安全確保に取り組んでいる。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	広いホールでは全員の様子をさりげなく見守る位置や、夜間帯の見守り方を工夫し、プライバシーに配慮して安全確認や細かなケアを行っている。		昼夜安全確認の見守りを継続している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間は、刃物は別室ロッカーに洗剤類も相応に保管している。本人必要とされる時は過剰にならないよう見守りしている。		きちんとした保管体制をして危険防止に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを身近に備えている。一人ひとりの状態に応じた細かいケアと環境整備、事故防止の学習を行っている。		ヒアリング報告書においては、原因、分析対策をチェックして事故防止に活かしている。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを身近に備えている。看護師による指導は随時行い周知を図っている。嘔吐下痢、ノロウイルスの実践講習を行っている。		初期の対応を全員がマスターするように学習会を継続している
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	設備点検年2回、火災訓練年2回、昼夜間を想定して利用者も参加して避難訓練を実施している。消防署、警備保障、併設施設に連絡協力をお願いしている。		災害対策は地域への協力体制の働きかけに取り組んでいく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては家族へ随時報告して、暮らしの安全を守る対応策を話し合い、理解して頂いている。		個々のリスクについては情報収集を行い予防的に対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃と違う状態変化については、職員間で連絡報告相談を徹底し速やかに対応している		医療機関と連携を図り早期対応して悪化予防に努めている。週1回往診があり病状管理されている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬指導により目的を理解している。内服が変わった場合は経過観察を行い、詳細に記載している。		経過観察の報告はかかりつけ医と家族に行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分、適度な運動を暮らしに取り入れ、自然排便につなげている。内服コントロールを行う時は使用量や頻度を考慮している		食事や日課を見直し、むやみに内服に頼らない工夫をしている
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	習慣化して行うことを理解していただくも声かけ見守りが必要で、不十分なところは介助している。使用物品や義歯消毒も定期的に清潔保持している。		漫然とした口腔ケアにならないように学習している。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が一日を通じて必要な栄養を提供している。食事量、水分チェックを毎回行い、状態や習慣に応じて献立を支援している。		健康維持のパロメーターとして栄養摂取や水分確保に努めている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを身近に備え、マニュアルを踏まえ実行している。発生情報を知り早期に対応し感染を最小限に留めるように努めている。		感染の流行に随時対応出来るような、学習計画と職員への周知徹底を図っている
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具などは管理方法を定め徹底している。食材は信用できる業者より2日毎に調達している。地域から頂く取れたての野菜やホームの畑の野菜は新鮮で美味しい。		衛生管理と安心安全な食材を使用して食中毒予防に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は広く開放感があり玄関先はスロープと手すりです安全に出入りされているが、車椅子誘導時は注意を促している。玄関前の花壇は季節ごとに咲く花で周り調和している。		玄関周りは地域の一員として皆さんが気軽に立ち寄れるように演出していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔で、不快な音や臭いがないように努めている。生活観や季節感を取り入れ、利用者同士の会話も多くみられている。		共用の空間は利用者間の調和を大切にしている。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所があり落ち着いて過ごされる。気の合った人が集まって過ごす場なども大切にしている。		共用空間もプライバシーに配慮することは必要と考え努めている。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	三年目を迎え自分の部屋らしく設え過ごされているが、全利用者とはまではいかない。使い慣れた馴染みの道具を時々家族に相談している。		居心地よく過ごし、夜は安眠される居室を工夫している。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は朝、夕方2回実施、週1回居室のオゾン器使用、冬場は加湿器を使用している。状況に応じたこまめな管理をしている。		換気と空調管理は継続して取り組んでいる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るところと出来ないところを見極めてさらに、利用者の言動に傾聴して職員間で検討しながら環境整備をしている。		自立して生活を送る環境は安心安全に徹して取り組んでいく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の目線で安心安全に工夫しているが、一人ひとりのわかる力を知り自立して暮らせる支援に努めたい。		本人のわかる力を確認して環境改善を図っていく。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは日当たりがよく日向ぼっこやブラブラと散歩を楽しまれる。気分転換の場として活用している。		建物の外回りはかなりのスペースがあるが、空間を活かきっていないので、本人が自分らしく過ごせる場として今後活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者は食事の時間を楽しみにされるので、美味しい献立作りに力を入れています。職員による手作りは昔懐かしい料理やハイカラな料理といつも変化に富んで、食事中的会話も増え職員も楽しみです。しかしながら食の安全を第一に提供し、利用者、家族に安心していただこうと、毎日頑張るスタッフの苦労には頭が下がり。又病気は予防が肝心と認識し、早期発見早期治療に力を入れ、状態の変化は医療機関と小まめに連携を図り、健康管理に努めています。家族の方とも日頃から報告、連絡、相談を行い利用者が第2の家で自分らしい暮らしが継続できるように支援しています。